



受発注者間情報共有システム
「現場クラウド One」



書類や写真を
探しやすい！



現場からでも
スマホで確認！

導入事例集



GenbaSupport
株式会社現場サポート

<http://www.genbasupport.com>

本社：〒890-0045 鹿児島市武1丁目35-4
TEL.099-251-9971 FAX.099-259-3874

福岡営業所
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3丁目4番8号
ダヴィンチ博多シティ3F

導入事例

株式会社中野建設 様

● 担 当 者 船津様 吉森 様

初めてでも簡単操作で効率アップ



導入前の課題

今まで利用した事が無かったので、業務効率化されるか不安だった

解決方法

初期導入や運用の変更も丁寧なサポート対応

効 果

スピーディーな状況確認・対応につながった

情報共有システムへの期待と不安



社内では国土交通省の工事などで利用しており、情報共有システムのことは知っていましたが、自身ではこれまで利用経験が無かったので実際にどのようなことができるのか、期待と不安の両方がありました。特に初めての運用なので、うまく活用できるか不安でした。

また、これまでCADデータ等の大容量データのやり取りにCD-Rを用いていましたが、今回利用するにあたって、大容量データの受け渡しなどの省力化に期待していました。

利用開始直後は基本操作の点で何をどうしたら不明でしたので、サポートセンターへの問い合わせを行いました。丁寧な説明を受けすぐに解決できました。

情報共有システムの活用メリットと今後への期待

活用が始まれば、主に打合せ簿関係での活用が多かったです。データ作成後紙に印刷する手間や書類を持参する手間が減りました。また監督職員の在席を気にせずに送れる点が業務効率化につながったと思います。さらに、どの段階まで回覧承認されているのか確認できるのも便利でした。

ペーパーレス化による経費削減や労力の負担減少は勿論、パソコン内での処理・閲覧が可能になり、紙による煩雑さがなくなったのが良かったです。

また電子データなので、パソコンだけで検査を受検でき、プロジェクターを活用することで検査立ち合い者全員が書類の内容を閲覧できたのも良かったです。週間工程表や立会願も従来の紙やメールではなく、個人フォルダ機能を活用しましたが、工事に関するデータが情報共有システム内で一元管理できているのが、非常に良かったと思います。

他にも個人フォルダ機能では、大雨などの災害状況などを写真付きで報告する際に活用しました。写真付きなので監督職員がすぐに現場に来られない場合でも、現場の把握ができ、判断材料にもなったと思います。

今後は上述以外にも、スケジュール機能を活用して、立会のための受発注者間のスケジュール調整に活用できればいいと思います。



導入事例

吉田建設株式会社 様

- 担 当 者 取締役部長 川上 啓志 様
- 発注機関 鳥取県 鳥取県土整備事務所

約53時間の削減! 紛失の防止!

全員で工事情報の共有ができ、現場の困りごとをいち早くフォロー



導入前の課題

今まで書類のやりとりを行う為に、発注事務所まで届けに行っていた。

解決方法

情報共有システムを利用することで工事帳票を簡単作成・提出・回覧までスムーズに

効 果

削減できた時間を現場管理に費やすことが出来た

移動時間の削減により現場管理の充実

今までは紙で書類のやりとりを行っていた際は、現場事務所で作成した書類を発注事務所まで持って行く時間が発生していました。しかし、情報共有システムを利用することで書類のやりとりがインターネット上で出来ることにより、この時間を大幅に削減することができました。

実際に今までの現場でどれくらいの時間をその移動の時間に割いていたかという、事務所まで往復する時間が30分、書類を説明する打合せ時間が10分で計40分が1度にかかります。これを協議・指示・報告・提出・承諾・立会書類等で80回行ったとすると総計3200分。約53時間の削減が出来ていることになります。

その分を現場管理(地元調整や現場出来形/写真/品質管理、工程見直し、原価管理、安全管理)時間を費やすことが出来ました。



工事状況の共有によって現場のフォロー体制と若手育成につながる

書類のやりとりに関しては、まずは電子上で行う為今まで紙の書類だと発生していた紛失がなくなった上、書類が誰まで回覧されているのかを一目で確認できます。受注者は書類を自分の都合に合わせてクラウドサーバー上で発議が出来るし、発注者も打合せの合間をぬった時間に書類の決裁を行うことが出来るといったようにお互いの時間の有効活用に使えます。

また、各工事に現場担当者だけでなく社内の人間も登録できるため、社内でも工事情報の共有ができ、現場の困りごとをいち早くフォローすることが出来ました。

そして、そういった電子データを社内技術者が今後共有していけば、若手技術者の未経験の工事の要所を施工以前から見つけることができ、手戻り・現場中止等のロスがなくなります。その上、協議書作成スキルも全体的に向上していくことも期待できます。



株式会社興洋工務店 様

- 担当者様 光浪様
- 発注機関 鳥取県 鳥取県土整備事務所

受発注者が共に安心して運用できるサポート体制！



導入前の課題

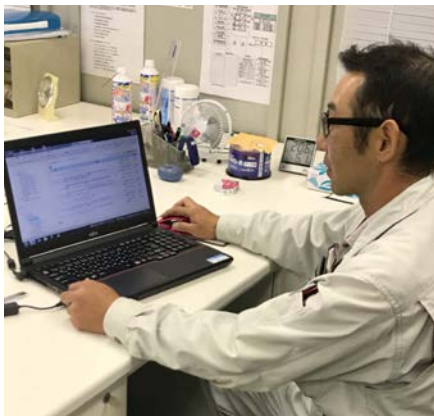
自治体発注の試行工事だったので、運用への不安があった。

解決方法

わからないことはすぐに質問できるサポートセンターの活用。

効果

初めて使う発注者への支援もしてもらい、受発注者共にサポートセンターを活用しスムーズな運用ができた。



疑問点あればすぐに質問。 操作も難しいものがなくて安心。

私たちは国土交通省工事で運用の経験があり、操作手順なども把握していたため運用に対する不安はあまりありませんでした。ただ、自治体が受発注者間情報共有システムの試行工事を始めたばかりであり、担当の発注者の方が紙と電子の混在での対応となることに不安をもっていらっしゃいました。いつもはメールで書類を送付したり、紙に印刷し発注事務所まで持参したりしていたため、紙ではなく電子での決済が出来るかどうか気になっていました。

しかし、実際に運用をスタートすると、受発注者双方が問題なく活用できました。初めて使う発注者への操作指導はもちろん、サポートセンターを中心としたサポート体制がしっかりしているため、何か疑問点あればすぐに質問できます。操作も難しいものがなく、今では安心して書類の回覧が来ています。



受発注者間情報共有システムを 利用したことによる本来の業務への注力化

今までの業務で時間がかかっていたことの一つに、発議書類を発注事務所まで持参することがあります。大体40分から1時間程度は往復が必要となる上、発注者が在席している時間を考慮して訪問する必要がありました。受発注者間情報共有システムを利用すると、受発注者共有のサーバーに書類を登録するだけでいいので、時間を気にせずに書類の発議が行えるようになりました。施工管理の面でも、以前は移動時間を気にして翌日に回していたものが、当日内で回答いただけることもあり、次の工程に進みやすくなっています。加えて移動に費やしていた時間が、今は別の発議書類の作成や現場の出来形といった本来の業務である現場管理に費やすことも出来ています。また、今ではまだ活用できていませんが大容量データの送付やスケジュールの共有も可能な機能があります。文字だけでなく対面式のコミュニケーションを図っていく上でも、予定を立てやすく事前に情報を共有できるようになるため、今後の運用拡大に期待しています。

導入事例

旭建設株式会社 様

- 担当者様 早瀬 様 中野 様
- 発注機関 宮崎県 県土整備部



情報共有システムや SNS活用で 働き方改革！

次の現場でも使ってみたい！ メリットの実感

初めて利用したのは、『今後、情報共有システムを活用する現場が増えてくるからやってみないか』と社内で声をかけてもらったのがきっかけです。実際に使い始めると、移動時間の短縮や発注者との時間の調整などの面で非常にメリットを感じ、新しい現場でも再度活用したいと思ったので今回も導入しました。

協力会社との情報共有を期待

現在、協力会社の方との仕事の段取りはメールや紙、電話などが中心です。それぞれ連絡手段が煩雑になってしまい、どの施工会社に連絡をしたかが分からなくなってしまいます。

今後の情報共有システムへの期待としては、見積もり等のデータを協力会社の方とファイル共有するような機能があれば、管理がしやすく便利だと思います。

働き方改革について

情報共有システムやi-Constructionの導入に限らず、仕事の進め方改善として、17時半までに業務を終わらせるように会社で方針が示されていて、実行しています。

作業時間を決めているので、時間までに終わらせないといけないという意識を常にしています。何事もガラガラやるのが嫌なので、早め早めの行動を心がけていますね。

また、業務の効率化を図るために様々な手法や情報収集を目的に、日経コンストラクション等の情報誌を読むようにしています。そこで得た情報は社内で水平展開し、会社全体で業務の効率化を図る取り組みをしています。

現場を空けることが 少なくなって安全管理が充実

現場と役所の距離が片道1時間、打合せの時間を入れれば往復2～3時間もかかる現場でした。情報共有システムを活用すれば、遠方の発注者へ訪問する回数も減り、時間の短縮につながるため現場に集中できました。また現場を空けることが少なくなるため、安全管理の面でもメリットになるシステムだと感じました。紙で書類を持っていく場合、提出時間の制限がありましたが、情報共有システムを活用すれば提出時間を気にせず、完成度の高い書類を作りこんで送ることができるのは良いですね。

また、台風等の災害が発生した際に、写真付きで現場の状況を発注者に報告したことがあります。自治体によってメールの添付制限があり、災害時の写真を容量制限で送れないこともありますが、情報共有システムでは大容量のデータを送ることができるため、その場で災害状況の共有ができ、緊急時であっても迅速な対応ができました。

災害対応での SNS 活用！

ほかにコミュニケーションツールの活用としては、会社全体でSNSのグループを作成して活用しています。

台風等の災害が起こった際に、現場の情報を共有できるように【災害掲示板】のSNSグループを作成しています。SNSを活用することにより、携帯ですぐに情報を共有でき、レスポンスも早く迅速に対応ができます。

導入事例

都城志布志道路安全協議会 様

- 担 当 者 株式会社山本組 牧之瀬 様
- 発注機関 鹿児島県 大隅地域振興局

安全協議会内でのスムーズな情報伝達！



導入前の課題

メールでやり取りをすると全員に伝わるまで多大な時間がかかっていた。

解決方法

掲示板を利用して情報共有の迅速化

効 果

施工会社同士の情報の共有が円滑になった！

掲示板を利用して 協議会での連絡事項一斉回覧！！

この安全協議会では、常時30～40社の施工会社が参加しています。これまで、参加中の協議会社への連絡はメールでやり取りしていました。メールだと一方的な連絡になってしまい、相手に伝わっているのか分からず、都度電話連絡で確認する等、多大な時間がかかっていた。

掲示板を活用するようになってからは、瞬時に全ての関係会社へ一斉連絡ができるようになり、連絡事項がスムーズに伝えられるようになりました。また、相手の都合を気にすることなく、合間の時間で自分の都合でやり取りできる点もいいですね。また、リアクション機能を利用する事で、情報の確認の有無がわかるようになって、迅速な情報の伝達ができるようになりました。



重要事項の共有で問題の未然防止へ！

現場で何か問題があった際には、すぐにこの掲示板にあげ、全員で共有しています。住民からの声や災害時の対応など、即座に共有したい事項もここに掲載すると一斉に確認でき、迅速な対応が可能になりました。これまでは連絡事項も個別に問合せがあり、都度対応してましたが掲示板でやるようになって問合せ内容も共有できています。

他にも過去に共有した様々なやり取りは掲示板機能の中に記録として残っているので、新しく安全協議会に参加した会社や担当者に変更になった場合も、一から説明することなくうまく引継ぎが行えています。もう紙やメールでやり取りしたくないですね。情報共有システムのおかげで業務を効率化できました。今後は、協議会内での議事録や写真等、ファイル共有にも活用していきたいと思っています。



導入事例

福浜大一・荻野特定建設工事共同企業体 様

- 担 当 者 平子 保男 様
- 発注機関 福島県 いわき建設事務所

仕事のスピードアップによる生産性向上



決裁状況の見える化により 工程計画や調整がスムーズに

発議した書類がどんな決裁状況であるのかシステム上で分かるため、発注者との次の打ち合わせの調整や、工程計画がしやすくなりました。他にも個人フォルダ機能を使って、打ち合わせに必要な大容量ファイル等も安全に送ることが出来るので、とても便利でした。

導入前の課題

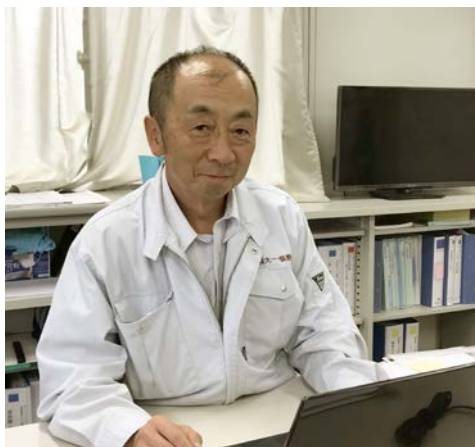
遠隔地の現場であったため移動時間に半日かかっていた

解決方法

情報共有システムで書類提出・決裁をタイムリーに処理

効 果

仕事のスピードアップによる生産性向上



仕事のスピードアップによる生産性向上

従来は、発注者事務所まで1.5時間かかる遠隔地だったため、打合せ時間等を含めると半日かかっていました。

情報共有システムを利用して、物理的移動時間の削減のみならず、書類が出来上がったらタイムリーに送ることが出来ます。

以前は移動時間がかかるので、複数の書類が溜まってからまとめて行っていたのですが、決裁が出てから次の作業にすぐに取りかけられるので、仕事の生産性が上がりました。加えて書類の作成に関しても、システム上のやり取りで発注者にきちんと伝わるよう分かりやすい書類の作成を心掛けるようになり、書類作成のレベルも上がったと感じています。

導入事例

株式会社杉本建設 様

- 担当者様 中居 正利 様
- 発注機関 国土交通省 九州地方整備局、九州農政局
土地改良技術事務所、熊本県(予定)

検査の準備がより簡単・効率的にできた



導入前の課題

紙書類の運用の際は検査時の資料作成に時間がかかっていた

解決方法

決裁された書類を日々管理し、データも一括ダウンロードで検査準備

効果

初検査用の資料作成などの準備時間が短縮、スムーズに検査を実施できた



検査の準備が効率化

今までは電子検査の場合でも、別途、紙の書類も用意していました。今回の現場では、現場クラウドから出力したデータで検査を受けられたので、紙の書類については最小限の準備で済みました。検査用資料をまとめるのが楽になりました。

また、ダウンロードする際に目次も作成されるので、品質や出来形管理の資料についても現場クラウドへ予め登録しておくことで、検査前に協議書の目次を作成しなくて良く、検査の際も目次に張られているリンクをクリックするだけで目的の書類を開くことができます。書類を捜すことなくスムーズに検査を受けられました。

安心のサポート体制

施工中、サポートダイヤルを活用しました。フリーダイヤルやリモートサービスを使用して、分からないことは何でもサポートセンターに聞いて解決できました。

対応が丁寧で分かりやすく、夕方まで対応いただいて助かりました。

今後の情報共有システムの活用

九州地方整備局や九州農政局の工事で使用していましたが、今年度から熊本県工事でも情報共有システムの使用が可能になったので、活用していきたいと思っています。

今後は、直接的に施工に従事しない者も、システムを経由して社内情報共有にも活用して行きたいです。



吉原建設株式会社 様

- 担当者 本店 土木部 部長 平川 健一 様
- 発注機関 九州地方整備局 宮崎県

現場の見える化で現場担当者の意識の良い変化



導入前の課題

現場の動きが分かりづらい

解決方法

各現場に閲覧ユーザー登録し、現場の進捗を確認

効果

現場の見える化で現場担当者の意識の良い変化

現場進捗の把握ができる！

自社の全ての現場に閲覧ユーザー登録して、情報共有システムを利用・閲覧しています。閲覧ユーザーで入ったきっかけは、営業担当と現場の進捗を確認したいと話したときに、閲覧ユーザーで登録してもらいました。

メール通知が来て、書類の内容が把握できるのに驚きました。現場で相談をして、内容通りに現場ができているかの確認が情報共有システムでできるようになりました。現場の進捗が進んでいることが把握できます。

基本的には、現場の担当者に任せています。深く立ち入ることはなくても、現場の把握をすることが大事だと思っています。情報共有・現場の見える化で、提出物の遅れがなくなるなどの現場担当者の意識の良い変化もありました。

ツールとコミュニケーションを組み合わせ活用



情報共有システム自体の機能として便利だと感じているのが、フォルダ形式でまとめると工事書類の一覧表が出るため、整理が簡単であることですね。完成検査時に一覧表にあるハイパーリンク活用して検査をするように、現場担当者に伝えています。

他には発注者のスケジュールで空いてる時間を共有できるので日程調整が容易にできます。各現場の担当者は段取りを早めに行うようになりました。顔を合わせることはすごく大事です。大事な協議は、情報共有システムを活用しつつ、発注者のところへ訪問して協議するなど、上手くツールとコミュニケーションを組み合わせています。

株式会社上野建設 様

- 担当者 阿多 徹也 様
- 発注機関 鹿児島県 始良・伊佐地域振興局 農林水産部

隣接工区や発注者との日程調整がスムーズに



導入前の課題

隣接工区の施工会社や発注者との日程調整に手間がかかっていた

解決方法

スケジュール機能の活用

効果

隣接工区や発注者との日程調整がスムーズになり、仕事の効率化につながった



スケジュール機能を活用して 隣接工区や発注者との日程調整

情報共有システムを導入する前は、立会や検査などの日程調整を電話やメールで行っていました。電話だとなかなかタイミングが合わなかったり、メールだと相手が確認したかの把握ができず、日程調整に時間と手間を要していました。

導入してからは、受発注者で予定を共有できるスケジュール機能で立ち合いの依頼、発注者の休みや出張、会議の予定を確認できました。また、発注者の予定に隣接工区の立会予定がある際には、時間をずらして自分の現場の立会依頼を行いました。そうすることで、発注者も何度も現場に足を運ぶ必要もなくなり、効率化につながりました。

電話で直接話をしなくても、メールでわざわざ連絡しなくても、日程調整が容易にでき、受発注者ともにメリットを感じることができました。

活用工事での表彰

本工事で情報共有システムを活用し、スケジュール管理や隣接工区との連携を行ったことも一因となり、優良工事の表彰もいただきました。機能を工夫して活用し、業務効率化につながったことで発注者からの評価も高かったのだと実感しております。

簡単操作と安心のサポート

今回で4回目の利用になりますが、ほとんどサポートセンターを利用せずにシステム運用できました。初めて利用した際に、丁寧にサポートしていただき、最後の電子納品までスムーズに作業を進めることができました。1回目の利用ですっかり操作も覚えたので、今では何か困ったことがあるときにサポートセンターに連絡するぐらいです。

今後の市町村の工事でもぜひ使ってみたいです。

導入事例

仁淀建設有限会社 様

- 担当者様 永野 和也 様
- 発注機関 高知県 幡多土木事務所 土佐清水事務所

発注者との日々のコミュニケーションが活性化



導入前の課題

従来のコミュニケーション手法をシステムで仕組み化

解決方法

掲示板に現場の状況写真を共有

効果

情報をオープンにしたことで発注者にも安心感



安心感を与える 情報のオープン化

元々、週に一回工事日誌の後ろに、工程表に加え現場の状況写真を付けて提出していました。その従来運用をもとに写真を掲示板で共有したところ、発注者との日々のコミュニケーションが活性化しました。

情報をオープンにしたことで発注者にも安心感を持っていただけだと思います。現場が冠水した際の写真を掲示板に挙げた際には、担当だけでなく課長なども確認してくれていたのがありがたかったですね。

業務効率化を実感

一番、業務効率化を実感したのは、提出書類の移動時間や手間が減ったことです。感覚としては8割くらい削減できたのではと思ってます。

ほかに今回の工事では、検査官が事前に書類を確認していただき、検査をスムーズに行えました。検査の時に紙でも準備していましたが、「普段から見てたから流れはわかっている」とおっしゃっていました。

実際に情報共有システムを利用してみると紙での運用より、電子化のほうが楽になりました。今後はスマートフォンを使った活用にも取り組んでみたいですね。

建設業のICTの活用は積極的に取り組んでいます。これまではベテランの方々の技術が建設業を支えていましたが、少子高齢化に伴い人が少なくなってくる中、効率化及び安全のためにも、どんどん技術は取り入れていきたいですね。



かごしま国体会場施設整備工事 鴨池公園安全協議会 様

- 担当者様 こうかき建設株式会社 的場 拓也 様 丸福建設株式会社 川畑 敦 様
- 発注機関 鹿児島県 鹿児島地域振興局 建設部土木建築課 西原隆昭 様

安全協議会・受発注者間のコミュニケーション促進！



導入前の課題

関係者への資料提出に受発注者ともに非常に手間が発生していた。

解決方法

情報共有システムの掲示板を活用して安全協議会内での情報共有を行った。

効果

時間・場所を選ばずコミュニケーションが取れて、質の高い打ち合わせにもつながった。



書類提出の簡素化

本工事では現場～地域振興局(出先機関)以外にも、県本庁職員、監督支援業務の方が決裁メンバーに入っておりました。従来のやり取りはメールで送信するか、もしくは、ほとんどが紙書類でした。書類提出のために、地域振興局・本庁・監督支援担当者間を行ったり来たりする必要があり、受発注者ともに非常に手間でした。

また、データ容量が大きいとメールで一度に送信できず、結局、紙で提出ということも少なくありませんでした。

それが情報共有システムを活用することで、大容量のデータもやりとりできるようになり、わざわざ行ったり来たりする必要がなくなりました。

掲示板を活用して安全協議会での情報共有



工区数が多い本工事では、掲示板を活用して安全協議会内の共有を行っております。具体的には、週間工程表の共有や協議会の議事録、発注者からの指示など協議会に関わることはすべて掲示板に投稿します。また大容量データのやり取りも容易にでき

ますので、ドローンで撮影した写真を投稿していますね。メールとは違い、各担当に都度情報を送る必要がないので、簡素化につながっています。

受発注者間のコミュニケーション促進

情報共有システムを活用することで全体的なコミュニケーションの機会が増えたと感じます。

現場同士は近いので、コミュニケーションはとりやすかったのですが、発注者はそういきません。これまで発注者との共有は、会える時にまとめて行うというのが基本でした。情報共有システムを導入することによって、些細な事でも即座に、そして簡単に共有が出来るので、時間・場所を選ばずコミュニケーションが取れました。そうすることで常に相手が見えており、お互いに安心して業務を進めることができたと思います。

直接会って協議が必要な場合もありますが、打合せ前に情報共有システムで事前に共有されることで、打合せ時間を短くし、限られた時間内でより質の高い打ち合わせを行うことができます。